# きゅうり産地の再生に向けた取組

## ねらい

海部郡では、県南の温暖な気候と冬期日照量が多い自然条件を活かし、促成キュウリ栽培が盛んに行われてきましたが、生産者数は最盛時の１／４まで減少しています。

このため、ＪＡかいふ、海部郡３町、県（農業支援センター）で組織する「海部次世代園芸産地創生推進協議会」を立ち上げ、移住就農による担い手確保と産地活性化を目標とした10年構想「きゅうりタウン構想」の実現に向け、地域が一体となって取り組んできました。

特に今年度からは、「県南きゅうりタウン」として、この取組を南部地域に広げるべく、阿南地域と連携して生産量拡大を進めています。

## 活動地域・対象

地域：海部郡全域　・　対象：移住就農者、新規就農希望者、施設キュウリ生産者等

## 普及活動の目標

きゅうり産地の発展に向けて産地間交流による情報共有を行い産地面積、収量、所得の維持・拡大に取り組みます。

## 目標に向けた活動概要

１　キュウリ栽培技術の確立

（１）養液栽培技術及び環境制御技術の確立

次世代園芸実験ハウスを拠点に養液栽培技術の確立を目指し、目標収量（３０ｔ／１０ａ）を達成するため、統合環境制御装置の通信ネットワークを活用し、各栽培ハウスの施設内環境を比較分析することで、冬春越冬作の栽培の問題点を洗い出しました。

環境制御装置の活用

（２）養液土耕栽培の推進

養液栽培で養った技術ノウハウを、従来の土耕栽培にフィードバックするため、日射比例による養液土耕栽培実証ほを設置しました。また、他産地との技術交流を行うことで栽培技術の向上を支援しました。

２　グリーンな栽培体系への転換

（１）キュウリ栽培における天敵の推進

天敵のさらなる活用方法の推進のため展示ほを２か所設置し、２種類の天敵昆虫を組み合わせた年内放飼型を推進しました。

（２）海部地域に適したキュウリの複合耐病性品種の選定

褐斑病、うどんこ病に対する耐病性を有し、かつ、海部地域の気候特性に適した品種の選定を行い、防除作業の省力化と高収量の両立を支援しました。

３　新規就農者への継続的な栽培指導

ベテラン農家、JAと連携し、キュウリ塾生に対して、栽培品種による温湿度や枝の仕立てなど栽培管理を中心に月１回の各ハウスの巡回研修を行い、経営の早期安定化を図りました。

４　産地間での交流

生産振興に向けた情報交換の場として「きゅうり栽培における情報交換会」を阿南市にて開催しました。各管内から生産者１名が代表し事例発表を行うことで、それぞれの栽培技術について理解を深め気づきを得られる場となりました。

## 普及活動の成果

**１　キュウリ栽培技術の確立**

**（１）養液栽培技術の確立**

施肥管理に課題があることが明らかになり、生産者と情報共有することで生育状況が改善され、年間収量３０ｔ／１０ａ（最高）に達しています。また、各栽培ハウスの施設内環境を比較することにより、生育・収量の改善に繋げています。

他産地との技術交流

**（２）養液土耕栽培の検討**

低コスト（施肥Ｎ量３割減）や省力化が図られ、収量120%増に繋がることが明らかになったため、Ｒ7現在11戸が導入しています。また、阿南市や高知県等他産地との技術交流により産地全体の栽培技術が向上しています。

**２　グリーンな栽培体系への転換**

**（１）キュウリ栽培におけるIPMの推進**

展示ほの結果、長期の残暑により９月下旬定植の展示圃においては害虫の個体数増加ペースが天敵資材による捕食を上回り、媒介病の発生が見られました。その後、天敵放飼前後の薬剤防除体系の見直しや感染株の早期圃場外への持ち出しを部会内へ周知した結果、ウイルス病の発生を抑えることができました。

**（２）海部地域に適したキュウリの複合耐病性品種の選定**

複合耐病性品種の導入により、褐斑病の発生が低減し、化学農薬の使用量の削減につながりました。また、防除作業の省力化と高収量の両立が図られました。

**３　産地拡大に向けた新規就農者の育成と労働力の確保**

現地指導の結果、栽培技術が向上し、指導対象者全員が部会平均以上の収量を達成しました。また、お互いのほ場を自発的に訪問し合うようになり、栽培管理の不安解消、学習意欲の向上が図られています。

４　産地間での交流

阿南・海南地区からの事例発表および佐賀県、愛知県の講師から先行事例を学ぶ機会を設けたことで、近隣産地間での交流が生まれました。また、栽培技術についての意見交換が行われ、参加者から「近隣産地の情報はありがたい。今後も交流を続けていきたい。」との評価がありました。

新規就農者現地指導

品種検討会

環境制御研修会

## 今後の発展方向

・「きゅうりタウン構想」の推進の成果（新規就農者１８経営体・２４名、１ｈａ規模の次世代園芸団地の整備）をもとに、県南地域が連携してきゅうり産地の活性化を目指します。
・低コスト省力化、増収が実証された「養液土耕栽培」の導入やグリーンな栽培体系への転換、中古ハウス等の遊休農業用施設の利活用を推進し、園芸産地の再生を図ります。

## 関係者からの声

・「きゅうりタウン構想」から１１年を迎え、一定の効果があったと思う。今後はキュウリをはじめ地域農業を幅広く振興できるよう取り組んでいきたい。（JA関係者）
・中古ハウスの移設などを活用して面積を増やしていきたい。（キュウリ生産者）


**美波農業支援センター**

連絡先：徳島県海部郡美波町奥河内字弁才天17-1　　tel：0884-74-7488